

# インディアナ日本語学校便り だい第16号

令和5年9月9日事務所 317-255-1631 メール [ijls@indiana-j-school.net](mailto:ijls@indiana-j-school.net)

(HP) <http://www.indiana-j-school.net>

校長 森 勝義

## 「第40回運動会」

### ～RUGBY WORLD CUP フランス大会～

校長 森 勝義

いよいよ来週に迫った第40回運動会。私自身初の運動会、非常に楽しみです。天気予報は華氏75度、天気も心配なさそうです。インディアナ日本語学校の運動会への園児・児童生徒の取組は、ほぼぶっつけ本番です。日本では考えられないことです。何か月も前から準備し、直前は何時間もかけて学年練習し、予行練習までして本番を迎えます。しかし、本校では事前練習はほとんどなしで当日を迎えます。担当の先生方や、高等部の先生方・生徒たちによる運営がしっかりなされていることが成功に繋がっているんだと思います。しかもそれが伝統となって脈々と流れ、後輩たちにバトンをつなげていくことは大変すばらしいです。目に焼き付けます。

さて、ラグビーワールドカップフランス大会が始まりました。前回の2019日本大会では破竹の勢いでベスト8になりました。

「ラグビーは少年をいち早はやく大人にし、大人に永遠の少年の魂を抱かせる。ラグビーは素晴らしい。」これは元フランス代表の名キャプテンだったジャン・ピエール・リーブが残こした名言です。それとラグビーの根底にある精神をあらわす言葉として「ONE for All All for ONE (一人はみんなのために、みんなは一人のために)」があります。

高校の教員時代、ラグビー部の顧問を18年間やっていました。その中で忘れられない部員がいます。彼は小さい体でも度胸があり、自分よりも大きな選手に果敢にタックルにっていました。そんな彼が友人と結成したグループで、友人と作った歌があります。私の大好きな歌です。まさしく「ONE for All All for ONE」の精神を歌っています。「ゆず」を結成し、「栄光の架け橋」をオリンピックテーマソングとして、歌っていました。

来週の運動会でもしかしたら「栄光の架け橋」がかかるかもしれません。あと1週間後の運動会のために、決して無理をせず、けがをせず、万全の状態で臨んでください。

#### 子どもの作品

6年2組 夏休みの出来事

川井隼人

ぼくがこの夏で一番楽しかったのは、アリゾナ旅行に行ったことです。ぼくはアリゾナ旅行で、グランドキャニオンやルート66などに行きました。一番楽しかったところは、ロウアーアンテロープキャニオンでした。なぜならアンテロープキャニオンは、洞窟で、だいたい同じ景色だけど、岩の大きさや形がいろいろあり、最初は人間が作ったのかと思いました。でも調べてみると、上流に降る雨がもたらす鉄砲水と風により、砂丘が固まってできた砂岩を長い年月をかけて狭く深く削りだすことで作られたと書いてあり、びっくりしました。他にも岩をたたくと音になるものは、中が空洞になっているということで、ぼくは、いろいろな岩をたたいていました。ぼくはまたこのアンテロープキャニオンにまた行きたいと思いました。

4年1組 「あんぱん1こ33回×2のありがとう」を読んで

石山 修

ぼくがこの本をえらんだ理由は、題名がふしぎだったからです。ぼくはこの本を手にとった時、題名だけでは本の内容が分からなかったもので、読んでみたくになりました。このお話には、日本の小さな町で、すごく親切で人をよろこばせる言葉だけ話せる男の子がでてきます。この男の子は、私のお母さんの弟、つまり私のおじさんです。

ぼくの心にのこった場面は、最後に年をとった男の子へあんぱんをわたすところです。お母さんと私が年をとった男の子に会いに行ったのですが、2人のことを忘れてしまっています。でも、男の子があんぱんに感げきして、66回もありがとうと言いました。ふつうの人は1口食べるごとにありがとうと言いません。お母さんと私にそれぞれありがとうと言い、33口で食べ終わるまでずっと言いつづけました。ぼくが男の子の好きな所は、人の家をきれいにする所です。7年間、こまっている人のお世話に通いました。この人がぼくににている所は、自分より下の子と遊ぶことです。この男の子は悪い言葉を使わないので、下の子たちも優しい人になると思います。ぼくは男の子が心配でもあります。なぜならば、悪いことにさん成してしまったり、だまされてしまうかもしれないと感じたからです。頼まれると何でもしてしまうので、良い言葉だけでなく、いやなことや間違っていることには反対する言葉も言えた方が良いと思います。

ぼくはこの本を読んで、男の子が毎日人助けをしたところがえらいと思いました。男の子を見習って、家の手伝いをしたり、人にやさしい言葉を使おうと思います。

5年2組 「きいて、きいて、きいてみよう」(4名中1名)

羽田 康生

「父と今の仕事」について発表します。

父は、海外から輸入したり、日本のもの(食品・薬)を海外に送る仕事をしています。話を聞いた理由は、父の仕事の内容が分からなかったからです。父は中学生のとき、初めて海外(オーストラリア)に触れて「もっといろいろな国に関わりたい。」と思ったのが今の仕事についたきっかけだそうです。将来の父の目標が「海外と交流ができる仕事につく」ということと「海外で働く」というのもあって、今の仕事についたそうです。「悔しいことや、いやなことはありますか。」と質問すると、「いっしょに働いている人達はいいい人達で、自分の目標の仕事だからいやなことはほとんどない。」と答えてくれました。そして最後に父は、仕事で海外(ベトナムなど)に行って、仕事に関わってくれた人達から「ありがとう」と言われることが一番うれしいことだよ。と教えてくれました。インタビューをして思ったことは、父の仕事のこともよくわかったし、これまでどんな思いをしてきたかもよくわかりました。このインタビューを通して、父をこれまで以上に応援したいと思いました。



ヒゲ森の言葉の森・探検

せいりよく はくちゅう

勢力伯仲

互いの勢力が接近して差がないこと

類語「難兄難弟(伯は長男、仲は次男)」

一生懸命やって勝つこと  
の次にいいことは、一生  
懸命やって負けること。

ルーシー・モンゴメリ

1874年〜1942年。カナダの小説家  
たとえ勝負で負けたとしても、得られるものが  
きつとあるはずだ。